

学生が主体的に取り組むキャリア教育授業の実践 —「自立と体験 3」—

鈴木 浩子*

1. はじめに

明星大学では、1年次前期の「自立と体験 1」から3年次前期の「自立と体験 4」までを「体系的キャリア教育プログラム」と位置付け、継続して一連の学習ができるように授業を設置している。平成 24 年度後期より開講した「自立と体験 3」は、「社会人基礎力を身につける」を目的にした 2 年次後期の自由科目である。平成 25 年度は、7 名の教員が 13 クラスを担当した。各クラスは 10 名から 20 名の少人数クラスで実施している。

本稿では、「自立と体験 3」の平成 25 年度の実践について報告するとともに、学生が主体的に取り組むキャリア教育授業とはどのようなものかについて、検討のヒントを得たいと考える。

2. 明星大学体系的キャリア教育科目

2-1. 授業の目標

体系的キャリア教育科目全体の教育目標と到達目標は、以下のとおりに設定されている。

教育目標	(1) 自己実現の第一歩として、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること (2) 生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成
到達目標	(1) 体験活動を通して自分の生き方を考えられるようにする (2) 自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする (3) 自らの人生を生き働くことが、社会貢献につながる基礎を作る (4) 人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする

2-2. 科目構成

科目構成は以下のとおりである。

科目名	ねらい (内容)	設置年次
自立と体験 1	明星大学生としての自己実現の第一歩 (初年次教育)	1 年前期 (必修) 全学共通科目
自立と体験 2	学科生としての自己実現の第一歩 (学科ごとの特徴ある授業)	1 年または 2 年 (必修) 学科科目
自立と体験 3	社会人基礎力を身につける (大学生活にも役立つ社会人基礎力を体験から学ぶ)	2 年後期 自由科目
自立と体験 4	就職力を身につける (就職活動の前提となる就職力 (意識とスキル) を学ぶ)	3 年前期 自由科目

* 人文学部 特任准教授 明星教育センター

2-3. 獲得を目指す力

これらの体系的キャリア教育科目で身につけたい力として、社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）を設定した。

自らを成長させる力	実行力 ・ 責任感 ・ 貢献意識 ・ 振り返る力
チームで働く力	発信力 ・ 傾聴力 ・ 柔軟性 ・ 規範性
考え行動する力	問題発見力 ・ 計画力 ・ 状況対応力 ・ 意思決定力

3. 「自立と体験3」の授業の概要

3-1. 授業内容

「自立と体験3」は、グループ演習・グループディスカッションを多く取り入れたアクティブラーニング型授業であり、グループで問題解決に取り組むことにより、体験的に社会人基礎力を身につけることが特徴となっている。大学生活の充実や卒業後の社会人としての生活に活かしていくことができる基礎的な力を身につけることにより、3年前期の「自立と体験4」につなげていくことを目指している。

具体的な授業内容は、以下のとおりである。

回	授業名	内容	主な演習
1	オリエンテーション	授業全体の概要・取り組み方	大学生活の振り返り・目標設定
2	表現技法1	自分の意見を述べる	論理的な構成・根拠を用いて話し合う
3	表現技法2	話し合って結論を出す	異なる意見を述べる・合意形成を行う
4	チーム活動技法	チームワークを理解する	ペーパータワー演習
5	問題解決技法1	問題解決を体験する	問題意識の持ち方・問題解決体験
6	問題解決技法2	問題解決のプロセスを学ぶ	問題解決のプロセス・チーム活動
7	表現技法3	社会的な問題を話し合う	社会的な意見・他者の視点で話し合う
8	問題解決演習 基礎1	問題点・課題を発見する	「学園祭の来場者を増やすには」 問題解決プロセスを実践しながら、チームで問題解決演習に取り組む
9	問題解決演習 基礎2	問題点・課題の解決策を探る	
10	問題解決演習 基礎3	解決策をプレゼンテーションする	
11	問題解決演習 発展1	問題点・課題を発見する	「明星大学のキャラクターを考える」 ここまでの学びを活かして主体的に問題解決演習に取り組む
12	問題解決演習 発展2	問題点・課題の解決策を探る	
13	問題解決演習 発展3	解決策をプレゼンテーションする	
14	キャリアデザイン	自分の持ち味を探る	他者からのフィードバック・自己表現
15	総まとめ	今後の行動を考える	今後の計画を立てる・プレゼンテーション

3-2. 学生が主体的に学ぶ仕組み

初年度（平成24年度）の学生アンケートは高評価であり、2年次のキャリア教育科目としての第一歩を踏み出すことができたと言える。平成25年度の実施に向けては、授業設置の意図に照らして、さらに学生が主体的に授業に取り組むことにより、そのプロセスから多くの学びを得ることを目指して、改訂を行った。

学生が主体的に学ぶ仕組みとしては、次のようなポイントを考えた。

- ① 学生自身がキャリア教育の目的を理解して、意欲を持って取り組むこと

- ② 授業の中で、「獲得できる力」が身につけている実感を持つことができること
- ③ 体験からの学びを豊かにするための、体験のための基本的なスキルが習得できること
- ④ 授業の中で、自ら考え判断して行動する体験ができること

4. 学生が主体的に学ぶ授業の工夫

4-1. 目的の把握による意欲付け

第1回オリエンテーションでは、「自立と体験3」の授業の意味を学生自らに考えさせる3つの演習を取り入れた。1つめは「私のモットー」「私の気持ちが燃えるのは」「チームの中で私がすることが多い役割は」「30歳の私は」などの質問が書かれたシートを使ってグループ内でお互いにインタビューをする演習で、授業での学びを通して自分を理解し表現できるようになるイメージを持った。2つめは、1年半の大学生活を振り返るシートを記入しながら、「入学時からの変化」や「卒業までにやりたいこと」を考え、大学生活を充実させる必要性を確認した。3つめには、社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）チェックシートで現状を整理し、授業に対する個人の目標を作成した。授業の目的について教員から口頭で説明するだけでなく、体験を通して自分で発見する方法を用いて、学生が意欲を持って授業に取り組むことを目指した内容である。

4-2. 学習の実感（積み重ね）

授業を通して学習している実感を持つために、社会人基礎力（「自立と体験3・4」バージョン）のルーブリック評価表を用いての自己チェックを実施している。平成25年度はさらに、授業の中で学んだことをその後の授業で活用する体験ができるように配慮した。

第2回表現技法1では「論理の樹」というシートを用いて「結論から話す」「根拠を用いて話す」練習を行い、第3回表現技法2では論理的に話すことを基礎として、「相手と異なる意見を述べる」「合意形成を行う」演習を行った。さらに第4回チーム活動技法では、ペーパータワー演習で合意形成を実践した。また、第8回以降のチームでの問題解決演習では、「論理的に話す」「相手と異なる視点で話し合いを広げる」「合意形成を行う」等を実践するように促した。

このように学習したことを用いて、さらに新しい内容の授業に取り組むという体験をしながら、「学習の実感」を持てるように、各回の授業の最初に「この授業ではここまで学んだ〇〇の技法を使う」という説明を頻繁に行った。

毎回の授業では、まとめとして200字程度の文章を宿題とした。テーマは「今日の授業に参加して考えたこと」とし授業内容の振り返り（内省⇒概念化）の意味を持たせた。また授業という同じ体験から自分が何を学んだかを考えるということは、自分の学習について整理する機会にもなり、「今日は〇〇の目標を立てて、〇〇が達成できた」といった記述をする学生も見られた。この200字演習については、教員が簡単なコメントを記入して返却する仕組みとし、それぞれの学生の課題に合わせて問題意識や論理性、文章表現法などについてコメントした。毎回書き続けることが、学生の「文章を書くことの苦手感」を低減する効果もあった。

さらに、第14回キャリアデザインの授業では他者からのフィードバックを通して自分の持ち味を探る演習を行い、自己評価だけでなく他者からの視点で学習の実感を高める場をつくった。

4-3. 体験のための基本スキルの習得

「自立と体験3」の授業では、チームで問題解決演習に取り組みながら社会人基礎力を身につけていく。社会人基礎力は、授業のコンテンツとして学習すること（問題発見力など）よりも、授業のプロセスで学ぶこと（実行力・責任感・貢献意識・振り返る力・発想力・計画力・状況対応力など）が多い。そのため、平成24年度は問題解決演習

を4回繰り返し、その中で学習していくことを目指した。

ところが、実際は、自分の意見を述べる、他者の話を聴く、合意形成を行う、チームで活動するなどの基本スキルが身につけていないため、問題解決演習の体験をスムーズに進めることができず、結果的に教員がかなり介入しなくては進められない状況となった。基本スキルを体験から学ぶこともできるはずではあるが、そのためにはかなりの時間が必要である。さらに基本スキル発揮の難しさに加えて、問題解決プロセスそのものが難しいことで、基本スキルを学べるだけの体験ができないという状況もあった。

そのため、平成25年度は、問題解決演習に入る前に、表現技法、チーム活動技法そのものを学ぶ授業を置き、問題解決演習学習のレディネスを高めることを目指した。「自分の意見を分かりやすく論理的に述べる」「意見の異なる相手と合意形成を行う」「PDCAを意識して活動を進める」などのスキルを獲得することで、チームでの問題解決演習に取り組みやすくなり、体験からの学びも深まった。前項でも述べたように学習の積み重ねを意識することで学習実感が持てていれば、それを活用して次の授業に取り組もうという意欲付けにもなったように感じている。

4.4. 学生自身による授業進行

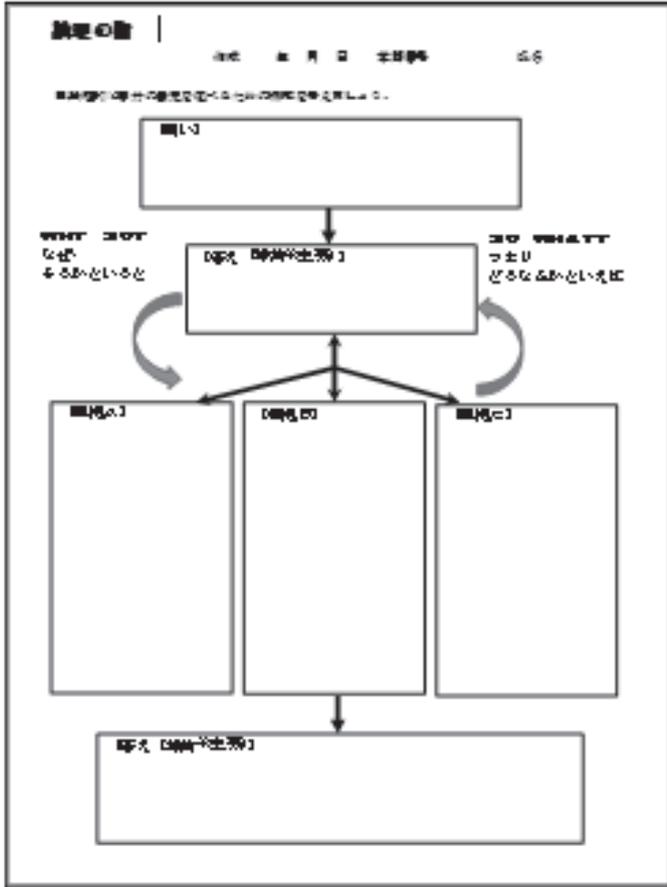
授業の中で「自分で考え決断し行動できる」ことで、自分の生き方についても自己選択自己決定ができるようにするという考え方のもと、授業にも学生が自分で考えて行動する要素を取り入れることを目指した。4.2. 学習の実感(積み重ね)で述べた通り、学んだことを実践する場面では、教員が進め方を指示するのではなく、「前の授業で学んだとおり進めなさい」という指示のみを出し、その後は必要があれば指摘する方法を取った。指摘する場合も、質問形式で学生から意見を引き出すように意識した。

また演習を行う場合は、40～50分のかたまりでグループに時間を与え、その中での進め方や手順を学生たちに考えさせ、計画を立ててから進める方法を取った。「チーム活動に慣れてきたので今日は長めの演習を行います」と伝え、学生たちが張り切る様子が見られた。またグループでの演習で何をどこまで行うかを伝えておくことで、時間内にそこまで行おうという達成意欲を高めることができた。

5. 今後の課題

ここまで見てきたように、平成25年度は学生が主体的に学ぶ授業のために、初年度の授業をさらに工夫して実践することができた。現在は授業が終了しておらず、実際にどのような効果があったのかという点については明らかにすることができていないが、今後アンケート結果などをもとに整理できればと思っている。

教員から見て、学生の授業への取り組みは前向きであったように感じているが、授業の違いなのか、学生個別の差異なのかは分からない。今回取り上げた4項目の授業の工夫は、学生によって効果に違いがあるように思える。つまりそもそも主体的な学生はより主体的に取り組むが、あまり主体的でない学生には効果が少なく、授業にうまく馴染めない場面もあるという点である。この点についても、今後さらに授業実践を進める中で検討できればと思っている。



第2回 表現技法1 シート「論理の樹」

第14回 キャリアデザイン
シート「チームの中での自分を振り返る」
(他者からのフィードバック)

チームの中での自分を振り返る (他者からのフィードバック)

学年 月 日 名前

自分の意見について、他者から意見をもらうことは、自分自身を成長させることに繋がります。自分の意見について、他者から意見をもらうことは、自分自身を成長させることに繋がります。

このシートは、チームの中で自分の意見について、他者からのフィードバックを受けるためのシートです。自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることは、自分自身を成長させることに繋がります。

番号	内容	評価
1	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
2	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
3	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
4	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
5	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
6	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
7	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
8	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
9	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
10	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
11	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
12	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
13	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
14	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
15	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
16	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
17	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
18	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
19	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	
20	自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。	

自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。

自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。

自分の意見について、他者からのフィードバックを受けることができた。